

■ 2024年度 入試問題分析シート ■

神戸大学

前期日程

科目

数学(文系)

総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

今年度も例年通り大問が3題の出題である。各大問とも小問に分かれ、その(1)は易しく、後半はそれぞれのテーマで誘導されているのも例年通りである。また、3題はいずれも難易度、分量とも標準であり、ほぼ従来の神戸大学の難易度、分量である。

〈特記事項・トピックス〉

今年度は、数学A, II, Bにわたる出題であり、各大問ともいろいろなテーマを含み、総合力を問う出題である。また、証明や図示の小問は出題されなかった。なお、第1問は小問が5つあり、例年頻出である積分法とベクトルは出題されなかった。

〈合格への学習対策〉

どの問題を完答するかということよりも、どの小問を取りこぼすかということによって合格が決まることが多い出題であり、今年度もそうである。過去に出題された問題を学習することによって、各分野で要求されている難易度レベルを確認することと同レベルの問題演習が重要である。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1.	記述	II B	対数関数 関数の増減 数列の漸化式	関数の最小値を用いて、数列の漸化式を作り、その一般項を求める問題である。(1)と(2)の過程で、関数の最小値を与える x の値から数列の漸化式を作ることは標準的である。(3)と(4)では、漸化式から一般項を求めるには対数を利用するが、誘導があり難しくない。(5)は、 $\{a_n\}$ の一般項でも $\{b_n\}$ の一般項でも求められる。	標準
2.	記述	A	確率	サイコロを投げたときの出た目の数が約数になる自然数や、出た目の積に関する確率を求める問題である。(1)と(2)では、ともに出た目の数の最小公倍数を利用する。ただし、(2)で「出た目が n の約数となる確率が $\frac{5}{6}$ である」ことの意味を取り違えないよう注意を要する。(3)では、20の約数で分類するのがよいであろう。	標準
3.	記述	II	2次方程式の実数解 軌跡	放物線と直線の位置関係から文字定数の関係を求め、三角形の重心の軌跡を求める問題である。(1)では、放物線と直線が接すること、(2)では、放物線と x 軸が異なる2点で交わることが問われる。(3)では、2つの接点と放物線の頂点で作る三角形の重心の軌跡を求めるとき、パラメータが $\frac{1}{a}$ となり、やや面倒である。	やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。